「(1)　昭和42年2月24日　国鉄東局特別扱承認新聞紙　第490号
昭和40年3月8日第三種郵便物認可（毎週一回金曜日発行）

☆反帝闘争を
プロレタリア日本革命へ！
☆プロレタリア世界革命の旗の下
共産主義者同盟に結集せよ！
共産主義者同盟

3月7日
週刊
第167号
編集発行人　佐々木和雄
一部　20円
購読料 20回500円（〒共）

戦旗

1969年3月7日　第167号

戦旗社
東京都千代田区三崎町2―7―6滝沢ビル内電話代表03（264）2961 振替（東京）26116
大阪支局大阪市福島区鷺洲本通り1―16北村ビル電話06（458）6597
京都支局京都市左京区下鴨宮崎町128―29（075）（701）0025
名古屋支局052（732）3553

3月8日／共産同主催 安保・沖縄 春闘勝利 労働者決起集会
（都勤労福祉会館・地下鉄八丁堀下車、午後六時）
／東大・日大 全国学園闘争 勝利名古屋集会
（名古屋市公会堂・午後五時半）
10日／69春闘勝利 70年安保粉砕 全大阪青年労働者集会
（中之島中央公会堂・午後六時）
13日／中教審粉砕 中大再占拠 中大闘争報告集会
（共立講堂、午後六時、主催・中大全中闘）

京大・阪大 神大・阪市大　入試阻止を貫徹

労学三千、京大に全国結集し 3・3闘争へ決起

官憲の先制(1日)攻撃はねのけ

二月二六日、京大全共闘は、本部封鎖を敢行し入試阻止への固い決意を全人民に明らかにした。この闘いを烽火に、全学連、東大、日大全共闘、中大全中闘等の闘う学生は続々と京大に結集し、一日には日共＝民青を粉砕し、完全に京大を征圧した。これに驚いた国家権力は、入試阻止闘争の破壊の意図をもって教養部へ乱入し、更に本部構内へと攻撃をしかけてきた。しかし、労学三千名は、これを実力で粉砕し、3・3入試阻止闘争へ決起し、七〇年安保粉砕を目指す全国学園闘争の更なる地平を切り拓いたのである。

【京都支局】全国学園闘争の最先端に登場した入試粉砕京大、阪大、神大、阪市大闘争を中心とす

京大に結集する全学連、全国全共闘、地区反戦、官憲と激突

闘う連帯のアピール

京大全共闘代表　小俣昌道

大阪大
大阪工大へデモ

神戸大
御影高校へデモ

名工大、本部封鎖を敢行
日共の敵対、諸派の逃亡を許容せず
社学同、東海地区反戦の支援で

砂川へ労働者千名
反戦サンゴウ行動隊結成へ
3・2

4・26―28闘争をプロレタリア国際主義の旗の下
安保NATO粉砕闘争として闘い抜け

ニクソン訪欧と危機の欧米列強

ニクソンがローマに足を踏み入れるや否や戦闘的学生六千のデモと労働者が迎撃した。これを阻止するイタリア帝国主義「軍隊」公認イタリア共産党に対して闘いが展開され学生一人が死亡した。パリでは反NATO・反ニクソン闘争を呼びかけたステッカーをはる労働者学生に警官が「発砲」、青年の胸を銃弾は貫いた。また価格は異常に高騰した。
ヨーロッパでは何がおきているのか！何がおころうとしているのか！
ニクソン訪欧の眼目はフランス五月「革命」で一挙に権威を失し、EEC内経済へゲモニーは西独にうばわれたド・ゴールのフランスを、再びNATO反革命同盟に呼びもどし、結果的に米＝西独ヘゲモニーを確認させ、ヨーロッパ反革命同盟を対ソ政治関係に有利に再編することであった。
だが、フランスも西独の政治へゲモニーの下に屈服するのに耐えられなかった。したがってニクソン訪欧を前に英帝に秘密外交を展開し「EECの枠をとりはらい、米帝との分離を条件に仏―英連合を組み、伊帝を引きつけて西独帝を孤立させて再度大陸ヨーロッパの政治ヘゲモニー奪還」を狙った。
しかし、英帝は逆に国際外交ルールを破ってまで仏帝ド・ゴールの陰謀をバクロし、仏帝の孤立を計る大胆な逆襲に出た。
このことは何を意味するのだろうか！
第一に、仏帝の「五月」以降急速な西欧政治における地位低下を利用して、分裂する欧各国を

NATO粉砕―帝国主義打倒へ向う米欧左派

侵略・抑圧と国内階級情勢の流動

4・26／28闘争の国際的任務

日本帝国主義とアジア階級情勢

爆音の下、3・2砂川闘争へ結集する東京地区反戦

青年部反戦派を軸に　階級的労働組合運動へ
総評運動の崩壊（経営協議会化）に抗して

共産主義者同盟都労連委員会

■日帝のアジア侵略と総評運動の崩壊

鉄鋼、電機、自動車産業を軸とする日本帝国主義のアジアへの市場再分割戦の進行の中で、日帝ブルジョアジーは、50年前後の産別会議の全面崩壊の時に行なった総攻撃に匹敵する、総攻撃を総評運動に遂行している。

50年前後の日帝ブルジョアジーの階級的労働運動＝産別会議への総攻撃は、日本資本主義の再出発＝企業整備＝人員整理の攻撃としてかけられ、産別会議の地点への遊撃的ロック・アウトとして遂行された。それは、49年国鉄、東芝争議（松川事件）同年全面レパによる産別会議＝共産党という核の破壊、50年日立争議、53年日産争議、54年日鋼室蘭争議等であり、資本のロック・アウトの中で、生産再開派＝第二組合の発生の中で個々に敗北した。

この資本のロック・アウト、立入禁止仮処分に対して、バリケード突破の物質力を地域共闘として実現しえぬまま、その直接的結果として敗北した。

この地域における労働者の横断的結合は、第一に、第一次安保（労働関係法改悪も含めて）朝鮮戦争への労働者の闘争力に、第二に職場における直接民主主義を協約闘争として遂行する組織力によって形成され持続しうるのであるが、そして、地域共闘が、バリケード突破＝工場占拠を闘いぬいた時、地域マッセン・ストが組織され、階級的労働組合運動を日帝再興期への持続的陣地として、構築しえたのであるが、拠点分解は敗北し、分解し、基幹産業における同盟・JCの支配の基礎が形成された。

この活動家へのレ・パ、拠点のロック・アウトの中で、労働戦線は分断され、労働運動の総退却が労働組合の経営評議会化と、その開始され、工場占拠争議の武装解除が進行する。

総評はこの総退却の中で、第1次安保闘争と、第1次安保に規定された労働関係法改悪反対闘争（労闘スト）を闘い、50年代後半の波状的な企業整備を工場占拠争議として闘うが、武装解除＝合法設得ピケ＝合法主義が浸透する。

61年三池、63年全金日本ロール工場占拠の武装解除の中で、（それは同時に、第2次安保闘争における政治的統一戦線とその崩壊に規定されている。）ブルジョアジーの攻撃は平和時の組合分裂攻撃（全造船長崎、全金プリンス自工等）＝左派のロック・アウト化を意図している。

ブルジョアジーの70年への総攻撃は、工場占拠争議の武装解除と合法主義化、合理化＝職制支配体系の再編、職務給＝職能給＝ゴマスリ給の導入等々の締結として個々に敗北した。

ヘゲモニーの完全な掌握の実現と個別レ・パ拠点の組合分裂、ロック・アウト攻撃によって、左派の工場からの放逐として想定されているのである。それは、左派活動家の……いる。

■帝統一戦線　かかる70年へのブルジョアジー

＝3・8　安保・沖縄 春闘勝利　労働者決起集会＝

日　時　三月八日（土）午後五時半

場　所　東京都勤労福祉会館（地下鉄日比谷線）（八丁堀下車）

■基調報告　70年安保と労働者階級の主体的任務

■闘いの報告　新興出版共闘ほか

■闘いの決意　全逓、国労、新聞労組

■連帯挨拶　共産同、鋼管川鉄青年活動者会議（予定）
山谷自立合同労組（予定）

自由討論

まとめ

主催　共産主義者同盟中央労対部

全国入試阻止闘争と固く結合し
中教審答申粉砕・中大再占拠へ

社会主義学生同盟中大支部

……せざるを得なかった彼ら＝個別教育資本自身の深刻な総括と、67年羽田闘争以降「組織された暴力」と「プロレタリア国際主義」に基き社会的拠点における闘いと権力中枢での政治焦点の形成を、混迷する日本階級闘争の先端で目的意識的に追求してきた全学連、その全国的拠点としての中大学生運動への政府ブルジョアジーの強権的圧殺、その具体的第一歩としての学生会館への弾圧としてあった。また学費闘争の最終局面で個別教育資本を裏切った教授会へのテコ入れによる権力再編としてあった。この事から我々が目的意識的にその本質的暴露を行いつつも自民党＝政府委員の私学への直接送り込み・支配という即自的危機感としてしか大衆的に認識されなかった事の証左として1／13大衆団交があった。ここにおいて教学側評議員を中心に評議員会内部の多数派工作の結果として常任委員会の形式的・現象的撤廃がなされた

教学側の評議員会内部における議会主義的解決と同質のレベルでしか評議員会内部における保利・永山一派の存在を大衆的に確認し得ず、具体的に保利・永山＝自民党＝反動＝学内民主勢力への敵対即学内民主化という代々木的思考方法を批判しつつも、我々の宣伝の不十分性もあって、教学側の常任委闘争の立場、内容の犯罪性、欺瞞性を一部の先進的学生大衆にしか認識させることが出来ず、具体的、現実的闘いがその枠を突き破った運動として展開されなかったからである。

即ち、大学の帝国主義的再編としての常任委の内部での議会主義的・形式的に常任委を解決して行こうとする教授会とそのプレッシャー部隊としての日共＝民青の思想的支柱を粉砕すべき体系的理論的内容をもっての全中闘内部での徹底した討論がなされなかったということである。この不完全性手工業性が闘いの基礎を教授会批判

矮小化されていった・教授会自治思想に対する根底的・体系的批判がなされず、全中闘総体としての闘いは旧来の延長線上を歩んでいたのである。

ともあれ、重要なことは東大闘争との関連での常任委闘争の再度の階級的位置付け直しという視点であった。政府ブルジョアジーは、大学院大学－目的別大学構想という社会分業体制の再編として階級

解体へと短絡させて行く（四派）誤謬が生じたのである。

1／20団交を経た後の八日る過程はブルジョアジー内部における動揺－分解の深化の過程り、永山評議員会議長形式的は直接対決する敵が眼前にないう焦燥感を大衆にもたらしだが一方では彼らの見えざる佐藤政治委員会－ブルジョアに結びつくことをはっきりとしたのである。理事長五鬼上竜前評議員会副議長が「永山放せよ！」と叫ぶ時、ブルジョアジー内部で熾烈な分派闘争がしていることが予望されるのる。生産－流通－分配－消費過程を包摂し、価値増殖を図めの醜悪な争が深部に亘っていることが。

……

入試めぐる教授会反動・二月闘争

一月闘争の即自性を越えて

3・13新大管法粉砕・再占拠へ

大検挙ロックアウト孤立化対決

全学連臨時二十回大会

日　時・三月二十七、八日

場　所・同志社大学学生会館

全日本学生自治会総連合中央執行委員会

共青結成へ進撃する青年戦線

ソビエト運動の確立めざし　結成準備大会（関東）かちとる！

共産主義青年同盟結成準備委員会

……ッパでも戦後レジスタンスの壁が仏五月、伊ゼネストの中で徐々に打ち破られつつある。

かかる波にあい対する敵・帝国主義者の動向を史上三度目の世界分割の野望として明らかにし、その中で、日常の核武装を頂点とした未曽有の暴力の肥大化が、世界革命第四の波といかに斬り結ぶのか。このことの明確な分析をするならば、4・20～28沖縄、ASPAC、訪米に至る今年の政治過程での主要な闘争を、「中央権力闘争とマッセン・スト」としていかに闘わねばならないかが、おのずと明らかになるであろう。

共青は、3月中旬某日、全国結成大会をもって公然と全人民の前に、真紅のヘルメットと同盟旗を登場させ、とりわけ、まず、4・26～28の首都中央権力闘争の中で比類なき戦闘性をもってその姿を示すであろう。

全国の戦闘的青年諸君！

共青に結集し、権力を戦慄せしめ、全国に工場、学園、街頭バリケードを構築し、世界＝一国同時革命、プロレタリア独裁、暴力革命の巨大な進撃をおし進めようではないか！

大阪市大　二会場へデモ

（一面より続く）

【大阪市大分局】大阪市大入試阻止闘争は京大を主戦とする全西的規模の共同闘争の一環として闘われた。

社学同市大支部は、全共闘（準）に対し次の様に方針を提起した。

①京大全共闘の呼びかけにこたえ、京大結集、入試阻止に参加する。これは、最も戦闘的、意識的部隊によって担われなければならない。

②京大闘争に呼応し、われわれは市大の入試阻止闘争を展開する。それは、各闘争委員会の大衆闘争として遂行する。

こうして3・1京大労学集会から連日、社学同三十数名を中心に百数十名が京大闘争に結集した。

市大入試は（国立一期と同時に）学外十二会場で行なわれたが、大学院、文学部の闘争委員会を中心に第一日に、二会場に対してデモを貫徹した。

これに対し、大阪府警は三千九百の機動隊を配備し、全国検挙の方針で襲いかかり、国家権力の暴力性を暴露した。

われわれは、この入試阻止闘争を契機に更に、3・24卒業式、4・1進学試験、4・10入学式をことごとく大衆的に粉砕し、帝国主義大学解体と日帝打倒・安保粉砕の戦略・戦術によって全共闘を武装し、4・26、4・28防衛庁－中央権力闘争に強力な部隊を派遣するであろう。

都東部労働者学園への案内

講師　清水慎三
藤田若雄　他

3月6日より開講3ケ月の予定

場所　葛飾区民館（和室）六時～

首都東部における労組青年部活動家の企業、産業の枠をこえた交流と相互討論の場として、東部労働者学園を計画し、広く開放します。

講師の清水慎三氏は、日本の社会民主主義（岩波新書）、組合民主主義（労働経済社）、戦後革新勢力（青木書店）等の著者で、最近ではエコノミストで、70年戦線への結集と、革新の共闘を論じ、その中で、反戦青年委などを、下からの人民権力派としてとらえ、社会党、共産党の上からの統制的人民戦線派への実りある批判者として論じている。

藤田若雄氏は、労働組合運動の転換（日本評論社）第二組合（日本評論社）、協約闘争の理論（労働法律旬報社）等の著者で、最近では、労組活動家集団を、地区→地域→産業別に、横断組合を個人加入により、組織しなければならないと論じている。現在病気入院中。4月より

3月の予定（各回とも報告と自由討論）毎週木曜

第1回　3月6日清水慎三氏戦後体制の崩壊と70年代の展望（68年闘争総括と反戦青年委の評価、70年戦線の形成）

第2回　3月13日竹内圀一氏（東部労働運動研究会会員）60年闘争から70年闘争へ（4／7→日韓→東交→国労の総括）

第3回　3月27日清水慎三氏　70年闘争と春闘、反合闘争（安保闘争と職場闘争、組合民主主義）

東大全共闘機関紙　進撃
第6号（最新号）
一部20円（〒15円）
戦旗社でも取扱ます

社会主義学生同盟全国委員会機関誌
理論戦線
（予価300円）
8号　近日発刊

共産主義者同盟労対部パンフレット
反帝統一戦線と階級的労働運動
第一章　労働運動の転換とは何か
第二章　70年代安保闘争における組織された暴力の位置
第三章　反レ・パ闘争の階級的意義について
第四章　右派労働運動の性格と動向
発売中　一五〇円（〒五〇円）